

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	福山大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	フクヤマダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F134310109919
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	広島県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	尾道市立大学
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	広島県
	大学等名2(連携大学等)学校種別	公立大学
	大学等名3(連携大学等)	福山市立大学
	大学等名3(連携大学等)学校所在地	広島県
	大学等名3(連携大学等)学校種別	公立大学
	大学等名4(連携大学等)	福山平成大学
	大学等名4(連携大学等)学校所在地	広島県
	大学等名4(連携大学等)学校種別	私立大学
	科目名	BINGO OPEN インターンシップⅠ、BINGO OPEN インターンシップⅡ
	学部・研究科等名	大学教育センター
	担当教職員名・役職	津田将行・講師、前田吉広・講師
受講者数実績年度	令和2年度	
受講者数※インターンシップ参加者数	73	
受入企業等数	76	
受入企業等名	(株)アクトシステムズ、(株)安藤・間広島支店、岩瀬商店(株)、(株)ABC、SMBC日興証券(株)、(株)エフエムふくやま、(株)エブリイ、大旗連合建築設計(株)、尾道市役所、尾道市立中央図書館、北村自動車(株)、(株)キャストム、(株)くるま生活、コスミック工業(株)、五洋医療器(株)、(株)サコダ車輛、(株)サンエイ、山陽工業(株)、山陽パッケージシステム(株)、三和設計(株)、しまなみ信用金庫、(株)セントラル情報センター、タカオ(株)、(株)靱スコレ・コーポレーション、(株)トモテツセブン、トヨタL&F広島(株)、内海造船(株)、日工(株)、野村證券(株)、広島県中小企業家同友会、広島県立歴史博物館、(公財)福山市スポーツ協会、福山通運(株)、(株)ププレひまわり、(有)勉強堂、(株)ロイヤルコーポレーション	
インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ	
	6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ	
	7.大学院生を対象とした研究インターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
		2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
1-3.上記回答内容に関する詳細	企業例1 商品の販売促進のためのイベントの企画、立案、運営を社会人の助言を受けながら、学生が中心となっていく。企業例2 商品製造の補助作業(開発・設計、製造、製造管理など)及び事務業務の補助(受注・発注・納品管理など)を行い、企業内での業務を一通り体験。	

要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している
		6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
		8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部2年
大学 学部3年		
2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位	
2-5.上記回答内容に関する詳細	2、3年次を対象に、夏期休業期間中に5日間以上のインターンシップをキャリア教育の科目として実施している。本科目の到達目標は、①社会人の方と直接の対話を通じてコミュニケーション能力について考える。②実社会で必要とされる能力やスキルについての理解を促す。③社会人基礎力の能力指標に照らし合わせ、自分の特性を知り、今後の課題、行動について考えることを促す。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
3.その他		
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	インターンシップ中に、ICTを活用して参加学生が学んだこと、気づいたことを投稿・共有することで、教員が学生の悩みやトラブルについて把握し、問題解決に向けての助言やサポートを実施している。	

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	参加直前に5時限分の研修を実施。インターンシップの趣旨や目的の理解、ビジネスマナー研修、および期間中の目標設定を行う。また趣旨や目的について理解を深めるために企業担当者も参加。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	インターンシップでの学びや気づきを自身の成長へと最大限活かすために、インターンシップ後にグループワークを主とした研修会を実施。またその成果を近隣4大学の学生、および企業担当者、地域の方々が参加して合同で報告会を開催している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	インターンシップ期間中に教員が企業に訪問し、担当者と面談、学生への声掛け、聞き取り、指導を行っている。またICTを活用して参加学生が学んだこと、気づいたこと、および悩みやトラブルを投稿し、教員は学生の状況を即座に把握し、問題解決に向けての助言やサポートを実施している。またこれらの投稿は他の学生にも見ること、意見や思いを書き込むことができるので、他の学生に対応して情報共有、助言、サポートにもなっている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
		2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
		3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
4-3.上記回答内容に関する詳細	インターンシップの事前研修と事後研修に同一のアンケート(4段階の回答選択)に回答し、インターンシップ前後の変容について把握する。	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
		3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	実施期間5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	実施期間5日間以上の就業体験を2回以上
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
5-3.上記回答内容に関する詳細	1社での実施期間5日間を原則としているが、複数社へ参加する場合、A社のインターンシップ3日間、B社のインターンシップ2日間を加算して、実施期間が5日以上となるように実施している。	
	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい

要素⑥	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	事前にインターンシップの意義や目的を確認の上、受入企業にプログラム設計の提案を行った。またインターンシップ中も受入企業担当者と本学教員が面会の場を設けている。プログラム終了後、大学と受入企業が一堂に会し、内容の改善に向けて情報交換の場を設定。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://zelkova.fukuyama-u.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusSansho/UI/WSL_SyllabusSansho.aspx?P1=G04CAE2160&amp;P2=2021&amp;P3=20211130">https://zelkova.fukuyama-u.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusSansho/UI/WSL_SyllabusSansho.aspx?P1=G04CAE2160&amp;P2=2021&amp;P3=20211130</a>
問い合わせ先	大学等名	福山大学
	担当部署名	大学教育センター 自分未来創造室
	担当者役職名	大学教育センター講師、キャリア形成支援副委員長
	担当者氏名	前田吉広
	電話番号	084-936-2111
	メールアドレス	<a href="mailto:ikusei@fukuyama-u.ac.jp">ikusei@fukuyama-u.ac.jp</a>